

主体性を育む 生徒指導

——他者への意識を高めて、生徒の「気付き」を待つ

時代と共に変化する生徒の気質や意識。

グローバル化が進む現代社会において主体性が求められている一方で、

最近の生徒は、「素直ではあるが、受け身」「他者に対する想像力が弱い」といわれている。

そのような気質・意識の変化に対して、どのような指導をすれば、生徒の主体性を育めるのか。

今号は「生徒指導」の面から、主体性の育成について考えていく。

Q ここ数年での生徒の気質・意識面の変化を教えてください

◎生徒は、ボランティア、部活動などに積極的に参加し、学びに対しても、ある程度のレベルまでは取り組み。しかし、何か覇気が感じられない。大きな夢がないというか、背伸びしないというか。主体性がないわけでもなく、明るく元気だが、何か冷めている感がある。自分はこの程度で……という限界を設定し、その中で普通に生きることに満足しているように感じてしまう。(宮城県)

◎肯定的に見れば、優しく、従順で、無邪気になっているといえるが、「強さ」が不足している。保護者も学校も、子どもがつまりずくことのないように、大事に守って育ててきている影響ではないか。(千葉県)

◎「教師の指導・助言を待つ」という受け身の姿勢が強いと思われる。自ら考え工夫して行動するということが出来ないようである。

(香川県)

◎素直な生徒が増えたが、自分で道を切り開いていく気概を感じられる生徒は少なくなった。(山口県)

◎「徹底する」「こだわる」といった点が弱くなり、あらゆることに関する興味・関心のレベルが低くなっているような気がする。勉強だけでなく、友人関係、部活動、進路など、他人事でも生きられる世の中になっていることが問題だと思う。(静岡県)

出典／「VIEW21」高校版読者モニターへのアンケート結果より。アンケートは、2013年8月にウェブとフリップで実施。有効回答数は61

本号のテーマ

生徒の気質や意識、そして社会環境が変化する中で、 主体性を育むために必要な生徒指導とは？

生徒の気質・意識の変化

- 素直であり、言われたことはきちんとするが、それ以上のことをしようとしていない
- 自分の言動が他者にどのような影響を与えるのかを想像する力が弱い
- 頑張ったことに納得してしまい、目標が達成できないことを悔しがらない など

グローバル社会

答えが1つとは限らない
不確実性の高い社会

今、求められる、主体性を育む生徒指導とは

座談会 [P.6~9]

- 他者と協同できるよう、他者意識を高める
- 課題やその解決策を自ら見付けられるよう、生徒に考えさせるきっかけや機会を与え、生徒の「気付き」を待つ



茨城県立
土浦第一高校
臼井健司



千葉県・私立
芝浦工業大学
柏中学・高校
早川千春



山口県立
下関西高校
大塚睦之

教師個人として、学校全体として、どのように実践するか

教師個人として

私の生徒指導 [P.10~13]

- 授業中のグループ活動で視点の多様性に気付かせる
- 学習方法の悩みの解決法などを生徒同士でアドバイスし合わせ、共感と感謝から他者を思いやる心を育む
- 自分の夢や進路をクラスで発表し合うことで、他者理解と自分のあり方を考え直すことを促す
- 学校行事や部活動、課外活動などで生徒同士が意見を述べ合う場を多く設定し、集団の中での自分と他者の役割を理解させる
- 教師が日常的に生徒とコミュニケーションを取り、本音で向き合う など



山梨県立
甲府南高校
三枝正人



愛媛県立
三島高校
高田潤哉

学校全体として

学校事例 [P.14~17]

- 校訓や綱領などをよりどころに、教師間で主体性を育む生徒指導の統一を図る
- 日常的に教師間の連絡を密にし、生徒についての情報共有をこまめに行う など

青森県立八戸高校